



日本 – 世界景気の減速懸念を受けて日経平均が大幅下落 –

POINT 米欧経済指標悪化が波及

3月22日の米国市場は、米欧で発表された経済指標が市場予想を下回ったことから、NYダウ30種平均の終値が25,502.32米ドルと前日比▲1.77%の下落となり、S&P500種指数とナスダック総合指数もそれぞれ前日比▲1.90%、▲2.50%の下落となりました。また、低調な経済指標を受けて米国10年債が買われたことから、米長期金利は急低下しました。これを受け米ドルは対円で下落し、円は1米ドル109円台まで上昇しました。米国株の大幅下落を受け、25日の日経平均株価は一時▲700円超となり、終値では20,977.11円（前日比▲650.23円）となりました。

また、上海総合指数が▲1.97%となるなど、アジア市場も軒並み下落基調となっています。

POINT 長短金利差が逆転

22日に発表されたフランス、ドイツ、ユーロ圏の3月の製造業購買担当者景気指数が市場予想を下回る結果となったほか、米国の3月製造業指数も悪化したことなどから、市場では世界景気の減速懸念が高まり、世界的な株価下落につながっています。

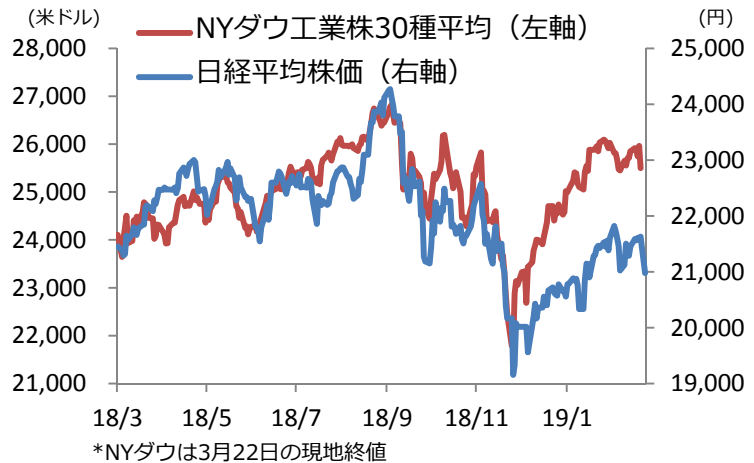
この流れを受けて米長期国債への需要が高まったことから、米10年債利回りが米3カ月物利回りを下回る「逆イールド」が発生しました。長短金利の逆転は景気後退の予兆とされていることから、リスクオフの流れはさらに強まり、日本株も大幅な下落となっています。

今後の見通し 日本株は緩やかな上昇へ

20日に行われた米連邦公開市場委員会（FOMC）でも景気予測を下方修正し、2019年中の利上げはないとの見通しを示すなど、市場では「ハト派」姿勢と受け止められたこともあり、世界的な景気減速に対する懸念はしばらく続くことが予想されます。一方、各国では金融緩和政策へと舵を切り始めていることから、長期的には緩やかな世界経済の拡大が期待されており、調整局面を終えて戻り歩調となれば、日本株も上昇に転じると見込まれています。

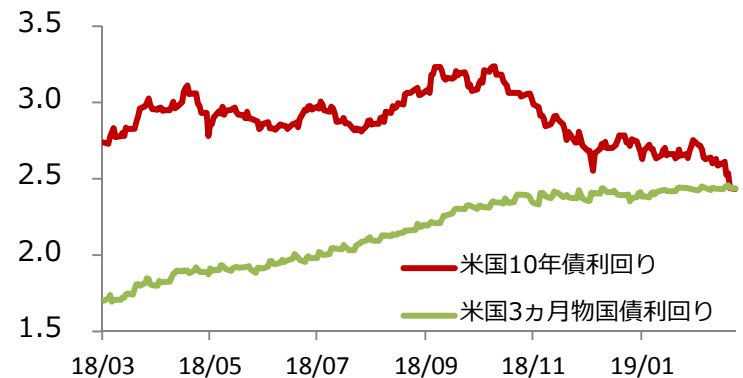
– 米国/日本株式の推移 –

(2018年3月30日～2019年3月25日*)



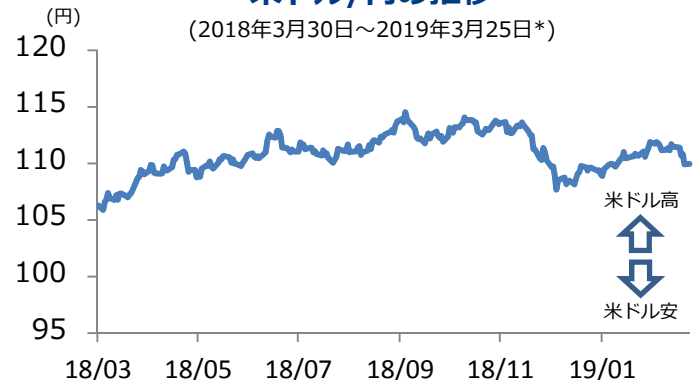
– 米10年債利回りと米3カ月物国債利回りの推移 –

(%) (2018年3月30日～2019年3月22日)



– 米ドル/円の推移 –

(2018年3月30日～2019年3月25日*)



*3月25日の数値は日本時間15時00分時点

出所：Bloomberg

■当資料は情報提供を目的として大和住銀投信投資顧問が作成したものであり、特定の投資信託・生命保険・株式・債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に記載されている今後の見通し・コメントは、作成日現在のものであり、事前の予告なしに将来変更される場合があります。■当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。■当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。



資産運用のベストパートナー、だいわすびざん

大和住銀投信投資顧問

Daikin SB Investments

大和住銀投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長金商第 353 号
加入協会 一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会